



4 **【講演抄録】**
内外情勢調査会 全国懇談会 (2018年9月11日開催)
珍惜机遇，
走好中日关系新航程
程永華 駐日中国大使



8 **【講演抄録】**
内外情勢調査会 長崎3支部合同懇談会 (2018年9月27日開催)
夢をかたちに
～生きがいと活力、潤いのある長崎県を目指して
中村法道 長崎県知事



10 **News & Column 時事通信から**
和牛、豪州へ17年ぶり輸出再開／さようなら築地市場



13 **寄稿**
諦める災害と乗り越える災害
内外情勢調査会 講師 福和伸夫 (名古屋大学減災連携研究センター長・教授)



16 **会員登場**
小松電機産業株式会社 [松江支部]
八雲立つ出雲から真のイノベーションを追求
全国・世界に広がる三つの事業を創造

18 「ゲスト会員制度」対象支部一覧 (2018年11月)

21 **information** 時事世論調査／内外情勢調査会のお知らせ

22 **自治体アンテナショップめぐり④**
千葉県 共同販売拠点「まだあ～るちば」

●今月の表紙は
「紅葉からのたき火」

紅葉を見たら風に舞う紅い葉から落ち葉を連想し、子供の頃のたき火を思い出した。庭木の葉でなく稲わらのたき火。近所に田んぼが多く稲の収穫後はたき火をしていた。芋を焼くところは同じ。秋です。
写真／渡瀬啓一郎



月刊 J²TOP (ジェイツウトップ)
2018年11月号 (2018年10月25日発行)
Vol.140
編集・発行・発売：時事通信社
〒104-8178 東京都中央区銀座5-15-8
Tel.03-3524-6963
編集協力：一般社団法人内外情勢調査会
時事通信出版局
印刷・製本：太平印刷社
定価：(本体1,500円+税)



■内外情勢調査会 全国懇談会【講演抄録】

珍惜机遇，走好中日关系新航程
(チャンスを大事に、中日関係の新たな航路を進もう)

程永華 駐日中国大使

■内外情勢調査会 長崎3支部合同懇談会【講演抄録】

夢をかたちに
～生きがいと活力、潤いのある長崎県を目指して

中村法道 長崎県知事

■寄稿

諦める災害と乗り越える災害

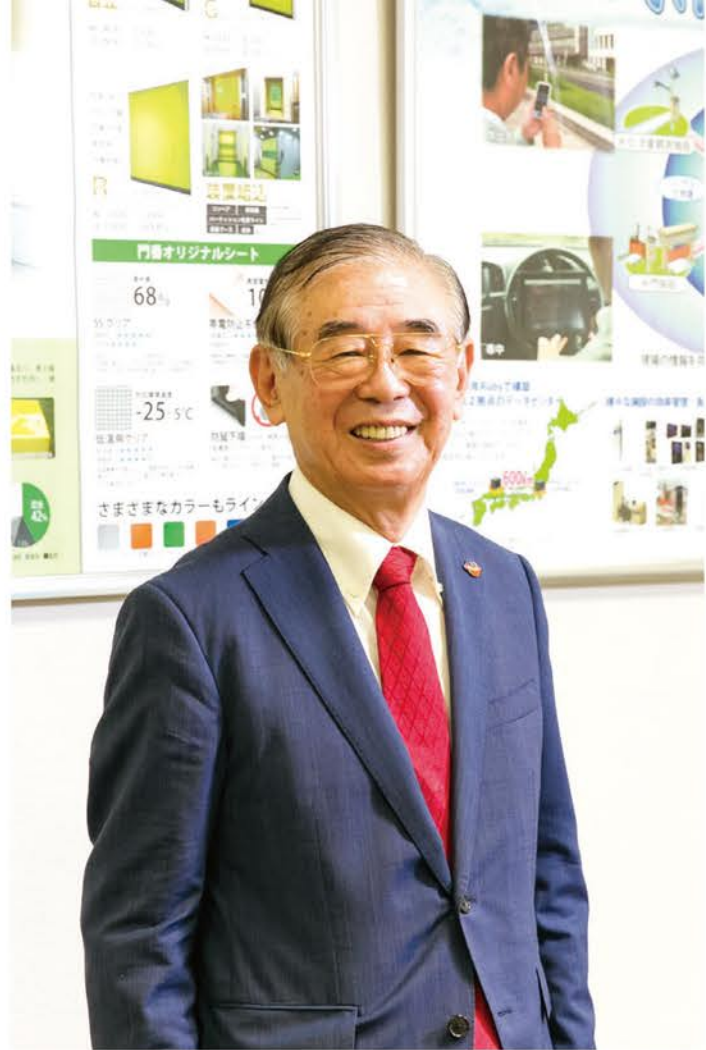
内外情勢調査会講師
福和伸夫 名古屋大学減災連携研究センター長・教授

■会員登場

小松電機産業株式会社
[松江支部]

八雲立つ出雲から真のイノベーションを追求 全国・世界に広がる二つの事業を創造

小松電機産業株式会社「松江支部」



小松電機産業株式会社代表取締役、人間自然科学研究所理事長の小松昭夫氏

◎文/本誌編集部
◎撮影/西尾優一(吉田写真堂)

密閉性、静粛性等の改良を重ね、一時は国内シェア70%を占める大ヒット商品に成長した。

市場創造に成功したことから、1991年中小企業研究センター賞、ニュービジネス大賞、2012年国土交通大臣賞、経済産業省ものづくり日本大賞などを受賞。さらに(社)シャッタードア工業会にシートシャッター委員会が設けられ、小松氏は10年間初代委員長として大手各社をまとめ、構造・安全・メンテナンス基準を作り、業界として初のエコマークの認定も獲得した。そして日系企業のアジア展開から中国、韓国、東南アジアにも普及が始まり、「門番」は、海外においても知られるようになり、築地市場に続き、豊洲市場でも大量採用され、オープンに伴い国内外の多くの人々の目に触れるようになった。

全国の自治体が導入する「やくも水神」

納入実績17万台の「門番」とともに、小松電機産業を支えるのが、クラウド総合水管理制御システム「やくも水神」である。

2000年、出雲市で採用以来、今では全国470自治体1万1500施設(18年10月現在)で採用されているが、

気制御で創業し、電気工事・土木建築業界の過酷な因習に耐え、配分電盤の製造、上下水道計装へと業容を拡大した。だが、85年広島県境、赤来町発注の水道計装案件で決定的なはじめが表面化し、売り上げの7割を占める電気工事業界向け配分電盤の受注が激減した。

「倒産が噂され、社員の6割が辞める危機に見舞われた」と、小松氏は当時を振り返る。

しかし、急ごしらえながらも80年に完成した山陰の冬の寒さを防ぐ高速シートシャッター「門番」が全国販売に向け地元の協力者を得て生産を開始。物流体制も構築し、新たな発展への業態を整えた。

シートシャッターとは、人や車両を感知し、ビニール製のシャッターが瞬時に自動開閉する扉で、防寒・防風・防塵・防音性に優れ、現在では工場や倉庫の出入り口・間仕切りに広く使われる。その一方で食品の安全、防虫・衛生管理の面からも注目が集まっている。

「当時は『手動扉、工場用自動ドア、ビニールのれん』が使われていた時代。フォークリフトの普及により、『門番』は、自動車業界をはじめ、あらゆる分野で受注が増えていった」という。

その後、安全性、耐久性、スピード、近年、企業の社会貢献CSV(共通価値の創造)、CSRが叫ばれるが、小松氏はこの先を行くCSXを提唱。人類の長い「対立の文明から共生の文化」へ移行できる「旗」を立てるチャンスを持っている。

書籍「魔法の経営」「天略」「母なる中海」「朝鮮半島と日本列島の使命」にも詳しく紹介されているが、1994年に小松氏によって設立された人間自然科学研究所は、戦後政治の変動期に起きた乱気流を追い風に、国家事業の中海干拓を中止に、また電電公社民営化を追い風に、お客様代表会議メンバーの立場を生かし、松江市他7町1村の電話番号統一を成し遂げた。

「最近ではクラウド・人の国家間大移動・核の時代の地政学を研究」という小松氏によれば、島根県の「竹島の日」制定、福島原発事故以後、世界最新鋭・日本最大「改良沸騰水型島根原発3号炉」の完成、朝鮮半島の激動を受け止め、沖縄、韓国、北朝鮮、ロシア、アメリカに知己を得てきたことを生かし、今年9月5日、松江市くにびきメッセで開催された「島根ものづくりフェア」で「21世紀の真のイノベーション」として6000人を前に大構想を発表。研究所のホームページにも掲載した。

長年に渡るこれらの活動により、小松氏は13年のオランダ・ハーグ市の平和宮100年記念式典で、ビル・ゲイツ氏などとともに「平和事業家、世界の20人」に選ばれた。そして韓国でテレビ「市民時代」、「英雄」、中国でも02年「人民中国」、05年「中央電視台」、

島根県と鳥取県にまたがる「中海」、日本背景にも選ばれている、宍道湖畔の水の都、国際文化観光都市・松江。グローバル時代の地政学を研究し、リスクを分析かつ生かし、独創的な構想力で全国・世界に広がるマーケットを創造してきたベンチャーの雄とも言われる会社がある。

逆境から生まれた二大ヒット商品

工場の入入り口・間仕切りに利用されるシートシャッターと、クラウド時代を先取りした総合水管理制御システムで、全国展開を行ってきた小松電機産業株式会社だ。

1973年、代表取締役の小松昭夫氏が、勤務先の倒産を契機に弟の光雄氏(常務取締役)と二人で八雲村(現・松江市)の生家の納屋から起業。土木・下水用ポンプの修理、工場自動化の電

での「やくも水神」紹介や13年、国交省成功モデルに上下水道すべてで「やくも水神」が導入された兵庫県多可町が指定され、福島県南会津町が水道イノベーション賞特別賞を受賞したことで、自治体に中央監視制御装置を置く時代が終わったことが広く知られるようになった。無償バージョンアップを続けた「やくも水神」による水イノベーションが確立したのである。

こうした成果に小松氏は「Global+IoT+AI+5G」の時代を迎え、「日本縁結びの地」を「世界縁結びの地」にすべく、志を共にできる出合いを待っている」とも語る。

1994年に「人間自然科学研究所」を設立

「このシステムは科学技術庁の注目発明選定証をいただいたが、弱体な地方の中小企業が全国販売、保守をしていくことは難しく、大手の独壇場になった」と、小松氏は当時の状況を語る。

当時、自治体にとって上下水道は重要な社会インフラであり、全国的な市町村合併で複雑化した監視システムの見直しは緊急のテーマ。安価で信頼性が高く、広域化に適したシステムが求められていた。2000年沖繩サミットで発表されたe-Tag構想を受け発売されたiモード携帯、ドコモ閉域網、ゼンリン地図を組み合わせ、クラウドの先駆けとなった下水マンホールポンプ遠隔制御管理システムを小松電機産業は構築し、出雲市から全国展開を始めた。その後Googleマップ・スマートフォン・タブレット端末に対応したアプリを開発した。

また、11年には東日本大震災の福島県、計画停電の東京・町田市で絶大な効果を証明するなど、上下水道はもとより消雪・ゲート・カメラ監視・排水機場・アンダーパス等用途が拡大。「事例が増え、このシステムが技術者の育成、広域応援体制の確立に必要不可欠なことが広く知られるようになった」と小松氏。

さらにNHKをはじめ全国メディアにも多数取り上げられた。10年には池上彰氏司会のNRI未来創発フォーラム(東京国際フォーラム2500名)



小松電機産業株式会社
一般財団法人 人間自然科学研究所
〒690-0046 島根県松江市乃木福富町735-188
TEL: 050-3161-2490
代表取締役・理事長: 小松昭夫
資本金: 1億円
設立: 1981年12月(創業: 1973年2月)
事業内容: シートシャッター happy gate「門番」、総合水管理制御システム「やくも水神」の開発・製造・販売